

別記様式（第5条関係）

会 議 録

会議の名称		令和5年度 第1回福津市観光産業活性化協議会
開催日時		令和5年9月7日（木）午後3時00分～午後5時00分
開催場所		福津市立図書館 2階 研修室1
委員名		（1）出席委員 永松毅文 増田美佐子 浄見譲 森田誠 塩川浩一 小役丸秀一 藤田裕美子 山口尚志 （2）欠席委員 佐藤聡 黒田伸太郎
所管課職員職氏名		経済産業部長 増田恭治 観光振興課長 宮原栄介 商工振興課長 梶原龍生 観光振興係長 波多野哲平 観光振興係 花田智美
会 議	議 題 (内 容)	1. 開会 2. 委嘱状の交付 3. 委員及び事務局の紹介 4. 会長の選任について 5. 会議録の作成方針の決定 6. 議事 （1）福津市観光産業活性化協議会の役割 （2）第2次福津市観光基本計画について （3）令和4年度観光施策の振り返り （4）令和5年度観光施策の予定 （5）その他 7. 閉会
	公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
	非公開の理由	
	傍聴者の数	3 名
	資料の名称	資料1 福津市観光産業活性化協議会委員名簿 資料2 福津市観光産業活性化協議会の役割 資料3 第2次福津市観光基本計画 概要 資料4 第2次福津市観光基本計画の中間見直しの結果 について（報告） 資料5 目標値ごとの年次推移（実績） 資料6 観光基本計画に基づく取り組み状況
会議録の作成方針		<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録 記録内容の確認方法 会長が指名する委員による確認

その他の必要事項	オブザーバーとして参加3名 ・ (一社) ひかりのみちDMO 福津 理事 池本裕之、事業本部長 中村留美 ・ (一社) ふくつ観光協会 事務局長 中尾文則
----------	----------------------------------------------------------------------------------------

審議内容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)
<p>1. 開会</p> <p>2. 委嘱状の交付 代表し永松委員に直接交付、他委員へは机上配布の形で委嘱状を交付。</p> <p>3. 委員及び事務局の紹介 事務局出席者の紹介、各委員による自己紹介。</p> <p>4. 会長の選任について 事務局提案について、出席委員の合意を得て会長は永松委員に決定。</p> <p>5. 会議録の作成方針の決定 事務局 : 福津市附属機関の会議の公開に関する要綱、福津市会議録作成要綱について説明。 決定事項: 会議の公開。事務局により会議録案を作成し、委員による確認の上で会議録の完成とする。 永松会長: 出席委員のうち、名簿順に会議録の確認依頼をすることの提案。 決定事項: 会議録の確認は、増田委員及び浄見委員とする。</p> <p>6. 議事 (1) 福津市観光産業活性化協議会の役割 (事務局) 「資料2 福津市観光産業活性化協議会の役割」に基づき説明 (浄見委員) 開催頻度が年に2、3回程度では、観光施策等に対するアイデア等を聞く時間、これを協議する時間がないのではないかと。 (事務局) 福津市観光産業活性化協議会は、市の附属機関という位置づけであり、費用弁償など予算が伴う。令和4年度は、第2次福津市観光基本計画の中間見直しのため3回開催したが、今年度は2回の開催を予算化し予定している。第2次福津市観光基本計画は令和11年度までの長期計画であるため、来年度までの2年間を通じて、開催頻度を検討したいと思う。 (浄見委員) 今日の会議も終わる時間を指定されているが、皆様のご意見やお考えを聞く時間が取れず、集まって報告だけで終わるのではないかと。 (永松会長) 2年間を通じて協議会の開催回数は限られている。最後の議題である「その他」で、2年間を通じて何かしら協議会で議論を深め、市に対して提言できるよう取り上げるテーマについて意見交換したいと考える。</p>

(2) 第2次福津市観光基本計画について

(事務局) 「資料3 第2次福津市観光基本計画 概要」「資料4 第2次福津市観光基本計画の中間見直しの結果について(報告)」

(山口委員) 「資料5 目標値ごとの年次推移(実績)」に基づき説明
目標像「福津の魅力を生かした持続可能な観光のまち」中の魅力とは、端的に何か。

(事務局) 自然環境という点では、海がある。4つもの海水浴場は県内でも珍しい。歴史文化という点では、宮地嶽神社、津屋崎千軒、世界遺産登録された古墳などがあり、産業という点では海が近いいため海産物を含めた食などがある。

(山口委員) 乗馬クラブは、他にはない特色だと思う。市内にはいくつの乗馬クラブあるか。

(事務局) 中本乗馬倶楽部、むなかた乗馬クラブがある。

(増田委員) 他に、奴山に「あんらいえんホース」という障がい者なども対象にした小規模な乗馬クラブがある。

(山口委員) 福津市では以前、馬車があったが、乗馬も特色になる。アイデアの一つとして良いと思う。

(3) 令和4年度観光施策の振り返り

(4) 令和5年度観光施策の予定

(事務局) 「資料6 観光基本計画に基づく取り組み状況」について、「(3) 令和4年度観光施策の振り返り」と「(4) 令和5年度観光施策の予定」を合わせて説明。

(山口委員) 今年はなぜ花火大会が開催されないのか。

(塩川委員) 元々福間の花火大会は商工会が開催していたが、20年程前に観光協会が引き継ぎ、市からの助成金や観光協会会員の協賛により1,500~1,800万円規模で開催していた。近年、警察関係から要求される警備費用の増大や花火自体の材料などが値上がりし、開催にかかる費用が以前に比べて大きくなっている。また、去年は恋の浦で開催したが、コロナの感染対策を行いながら大勢が押し寄せる花火大会を開催することはたいへん難しかった。毎年どんな形でも続けたいという想いで模索している。行政から補助金をいただいて8月に開催するためには、2月頃までには花火大会の開催のための予算の要望が必要になる。しかし、今年の2月時点はコロナ禍の真っ只中で、第5類への移行や8月の状況を予測できなかった。費用の増大や予算の縮小の中で、有料化しないと費用的に厳しい状況になっているが、有料化には地元住民の反対などにも配慮が必要になる。今年の場合は、準備期間の不足や予算がないこと等の理由から開催できなかった実情がある。観光協会としても花火大会は開催したいと思っているが、市内の企業や行政からの補助金をいただき、郷づくりや自治会とも一致団結する状況ができない限りは、今後も花火大会の開催はかなり難しいと思う。

(増田委員) コロナも落ち着き、人の動きも活発になっていると感じる。ふくつの古墳まつりに関わっているが、福津市と宗像市を全部合わせると約2,000基の古墳があるという。古墳まつりを勝浦地

域と一つにまとまって重要視されるようなものにしていきたいと思う。

(藤田委員) 暮らしの旅という着地型観光にも携わっており、「基本方針2 (3) タクシー代を補助する事業」の使用について旅に関わる人たちに提案したところ、知らない方が多いことを実感したので、もっと知って活用されるように告知したらいいと思う。また、「基本方針3 (1)」中のフリーペーパーとして我が社で長年発行している fukufukumap を挙げてほしい。お金を自分たちで出し合い、店舗を回り試食をするのも自分たちで行っており、福津のために頑張っているので名前を挙げてほしい。

(永松会長) このような発言をいただくことで伝わる。可能であれば事務局は掲載してください。せっかく良いものがあったとしても伝わっていないため、情報発信について努力が必要である。

(小役丸委員) 福津には、道標がほぼない。福津の名物は海岸だと言われても、どこから曲がるのかなど海岸線に行く道がわかりにくいので、道標がもう少しあってもいいと思う。また、旧津屋崎町側の松林沿いは街路灯があって明るい、旧福間町側は夜になると真っ暗になる。福津は松林がすごく綺麗で名物で、広い道の横に綺麗な松林があるのも珍しいので、松林を照らし、綺麗な松林を通して抜けていく道は観光資源になると思う。他には、ランドマークみたいなものがあると思う。福津の入込観光客数の多くは宮地嶽神社であり、福津の集客のランドマーク的な役目を果たしている。宗教施設・団体と行政の関わりは難しいかもしれないが、何かできるともっとわかりやすくなると思う。実際にお客様に対して「宮地嶽神社の看板を目指して来てください」と伝えている現状があるので、何か一つランドマークを設けると福津の観光はもっと変わっていくと思う。

(山口委員) 玄海灘から世界遺産の新原・奴山古墳群など福津市を一望できるので、ランドマークには東郷神社がいいと思う。

(森田委員) お魚センターうみがめという直売所を運営しているが、5月の鯛まつりには約6,000人、7月のさざえまつりには約8,000人の来場があった。津屋崎祇園山笠など津屋崎の祭りについては耳にすることも多いが、福間地区の情報はなかなか入らず、直前に知ることがある。宮地嶽神社、3つの直売所、カメラ、藍の家など色々な拠点があるが、全部が繋がっておらず、それぞれで何かイベントをやっている。そのため、お客様に聞かれても答えられないので、情報共有などを重点的にやれば、お客様から聞かれても答えられるようになり、もっと知ってもらえると感じる。

(永松会長) 旧福間と旧津屋崎で共有できていない部分があると皆様を感じているが、同じような課題を抱えている自治体は多い。九州で一番面積が大きい大分県佐伯市は9市町村が合併したが、情報共有するために毎月情報の集約を行って職員向けと外向けにホームページ等で発信する等して市が工夫と努力をしている。要するに、情報発信の前段では情報共有というのが非常に大事である。

(塩川委員) 昭和28年から福間駅前タクシー業をしている地元の商売人として、商工会の青年部に所属したり、PTA役員をしたりしてきたが、各々が頑張っている印象がある。観光協会と名乗る団体として不徳の致すところだが、行政が中心となり、観光協会、いいざい、商工会などが集まって情報をまとめ上げる後押しをしてほしい。マンパワーと素晴らしいものが集まると、もっと大きなイベントや、同じことや同じ努力をする上でも、もっと他地域の方からも足を運んでいただける魅力的なイベントができると思う。この協議会では、もっと何か知恵がないかを話す場をぜひ設けてほしい。

(浄見委員) 今回は、宮地嶽神社としてではなくDMO代表理事として参加しているが、皆様の発言にあるように観光について真剣に話し合う場所がほしいと常々思う。年2回では少ないが、もっと色々なことを話し合い、施策に繋げられないかと思う。例えば、乗馬クラブに宮地嶽神社の祭りに出ていただく、お魚センターの祭りに合わせて宮地嶽神社に鯛を奉納いただいて来訪者に配るなどが考えられる。お互いに議論し合って良い方法を探るのが本来の姿ということでDMOを設立したが、今行っていることは鯛茶漬フェアやスイーツフェアなど、今まであったものが多い。そのため、この場が、新しい方向性に向かうために福津の観光をどのようにまとめ上げ進めていくのかというブレインであってほしいと思う。特に永松会長には、インバウンドに対してもアウトバウンドに対しても強いまちづくりのため、個々の取り組みを一つにまとめて大きく発信できるように形式的ではなく真剣に協議できるように配慮してほしいと思う。

(5) その他

(永松会長) この協議会の開催回数は限られているので、今年度だけでなく2年間を通じた議題ができたらと考える。進め方や内容、テーマ、アイデアなどについてご意見を全委員から聞かせてほしい。

(山口委員) 津屋崎に対馬見山という山があるが、見晴らしがよく玄海灘や福間海岸が一望できる。突飛なアイデアだが、対馬見山の上にパラグライダー基地を作ると眺めが良くて気持ちいい観光の目玉になるのではないかと思う。

(浄見委員) 在自山が対馬見山と呼ばれている。そこに登ると壱岐・対馬が見えることがその由来である。大東亜戦争時には対馬見山の下に訓練場があり、そこから対馬の方にグラライダーを飛ばす練習が行われていた歴史があるので、アイデアとしては的を外しているものではないと思う。

(小役丸委員) 20数年前に民有地で多分日本初としてパラグライダーの事業をしたことがある。現在はしていないが、パラグライダー、乗馬、ジェットスキー、バーベキューという陸海空すべてを体験するプランを企画すると、すぐに予約が埋まったので何年か実施していた。現在、アクティブなものが魅力に変わってきているので面白いアイデアだと思う。

- (藤田委員) 30年前くらいに福津に引っ越してきたが、当時から、観光協会、商工会などそれぞれが個々に活動しており、一緒に活動したらいいのという声を多く聞いてきたので、この場を借りて少しでも実現できればと思う。
- (小役丸委員) 一体化していくと面白いものになると思う。私の住む岡垣町と比べると、人口の多さやJRの駅の近さ、知名度などから福津の方が恵まれている。何かちょっとしたきっかけで変わる要素がすごくあるので、これを良い機会として一つの力になったら良いと思う。岡垣町は今年、「地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業」という補助金を観光庁からもらったが、他地域と違って仲が良くてまとまっていることを活かし、一緒にどうにかして地域おこしをしようということからスタートした。このような発想が必要だと感じる。
- (森田委員) 今年、津屋崎祇園山笠では4年ぶりに動く山が開催されたが、メディアに多く取り上げられ、今までにないくらい多くの人に見に来てもらった。メディアの力を実感したので、メディアを使うのも一つの手段だと思う。市は津屋崎祇園山笠に補助金を出して伝統を残そうとしているが、昔からの伝統的な行事にも関わらず福津市の中でも知らない人がおり、津屋崎地区の人だけの祭りのようになっている。津屋崎祇園山笠には津屋崎地区以外の人でも参加できるが、知らない人が多くいるので、市が一体となって取り組めておらず問題だと思う。博多祇園山笠と言えば全国から観光客が来る祭りなので、津屋崎祇園山笠も観光として取り組めば、もっと良くなると思う。また、今年4月にいいざいは池袋の百貨店で催事を行い、福津市をPRしたところ、福津市がどこにあるかということから説明が必要であった。説明する中で宮地嶽神社と言えば分かってもらったが、それしかない。「福津市と言えばこれ」というものを増やすために話し合いができれば良いと思う。
- (永松会長) 認知度を上げるためにメディアを活用することについては、福津市としてどのエリアを目指して来てほしいか、どの年代が大事なのかなどを考えていく必要があると感じる。今年の3月まで、大分県境の佐伯市という人口7万人の観光協会にて色々なイベントを行っていたが、できるだけ定量的に効果設定できるようにイベントを実施するようにしていた。大分県全体に約113万人、大分市に約48万人、佐伯市に7万人の人口があり、夕方時間帯に10%の視聴率を持つOBS大分放送という地方の放送局があった。10%の視聴率を48万人に掛けると、一生懸命に見る人と何気なく見る人がいたとしても明らかに認知度は違ってくる。また、博多駅は通勤の職員も含めて1日40万人の人が通る。博多シティ9階と10階にはレストラン街があり、食事する人や映画館に行く人が合わせて1日3万人いる。1か月間そこでPR会などをすると計1,600万人の人が博多駅を通るので、1%でも目にしてくれれば16万人の人には届くことになる。効果設定は難しいが、根拠を持ったものに置き換える考え方を習慣づけるようにと職員に言っていた。認知度を上げてい

- くことは、地元で頑張っているものをより多くの人に知ってもらうことに繋がる。
- (塩川委員) 宣伝・告知・PRが大事だと思う。宮地嶽神社の祭りの際の芸能人や、福津市出身の芸能人に依頼すると費用がかかるので、福津市をアピールするキャラクターや女性など情報発信に特化した人を1人雇い、観光協会や商工会、宮地嶽神社のイベントや祭り、福津のいろんな飲食店などをSNSで常に発信し続けると、情報は広がると思う。
- (増田委員) 馬車事業を10年間行った中で、宮地嶽神社や津屋崎千軒、海岸沿いなど色々な観光スポットを回ったがうまくいかず、事業所の近くの田畑や田園を見ながら古墳周辺を巡るコースの方が人気あった。この経験から、自分たちからすると何でもないような田んぼや古墳があるところが喜ばれることが分かった。魅力的な仕掛けをして誘客するのもいいが、整備された美しい松林など地元の間人にとって何にもないと感じるところも観光資源となり、自然を巡るだけでも楽しめて豊かな旅ができると思う。今年古墳まつりは、古墳がある場所だけでなく、古墳の周辺にも広げていきたいと考えているので、古墳群に咲く菜の花の黄色と、あんずの里に咲くあんずの花のピンク色を色でつなげ、福津の春の一部として楽しんでもほしいと思う。古墳の緑や夕日のオレンジ色、春の花の色合いのように色を観光の魅力として置くのも良いと思う。
- (浄見委員) この会議が、皆様と色々なことを話せるような場であってほしいと思う。また、この会議をきっかけに動いていけたらいいと思う。先ほどの馬の話について補足すると、4～5世紀位までは勝浦から渡半島は元々馬の放牧地だった。そこで馬を育て、船に乗せ朝鮮半島に行き、朝鮮半島に売っていたという歴史がある。その辺一帯を馬の放牧場にし、どこにもないものにするのもアイデアになる。このようなアイデアはたくさんあると思うので、皆様と話し合い、地元の観光をどうしようかと真剣に取り組めば、福津は絶対に変わり、もっと良いところになると思う。例えば、いいざいの鯛まつりに関しても、もう少し前から知っていればできたことがある。DMOとしてもやらなければならないことなので、個別に相談して一緒に考えていけたらいいと思う。ぜひ福津が大きく変わるために一緒に取り組んでいきたいと思う。
- (永松会長) 委員の皆様のご意見をまとめると、一番の共通項は、個々に存在する良い情報をどうやって共有していくのかという「情報の共有」となる。そして、共有化された良い情報をどのような方法で伝えていくのかという「情報の発信」がある。委員の皆様がもっと取り組んでいかなければいけないと感じていることは「情報の共有」と「情報の発信」だと思う。この協議会として正式に集まるのは年間2、3回と少ないが、個別に相談できることは行いながら、2年間通じて「情報の共有」と「情報の発信」をメインのテーマにして議論してはどうかと考える。
- (全委員) (異議なし)

(事務局) 協議会の開催回数については、多数のご意見を真摯に受け止めている。今年度の回数を増やすなどはできないが、今後、書面での情報交換などを会長と協議しながら、少ない開催回数の中でより効果的に協議会活動を充実できるよう検討していきたい。次年度以降については、担当課として必要性を訴えながら回数を増加できるように検討していきたい。

7. 閉会